



# 「災害時できるかも 大交流会2025」



## 参加者アンケート回答 & グループトークまとめ

### 災害時できるかも～ みなさんの意見を持ち寄る場となりました

災害時には、災害発生後すぐに現地で行うボランティア活動だけではなく、「避難所で子ども達に本の読み聞かせをする」「ペットの世話をする」などのボランティアも必要になります。

近年頻発している自然災害に備えて、団体の日頃の活動が災害発生時やその後どんな風に活かされるかを考える、いざという時のためのネットワークづくりを目的とした交流会を2025年5月30日に開催しました。

### 会の内容

- ◆開会あいさつ
- ◆トークセッション「災害時のつながりについて」  
松原裕樹さん（ひろしまNPOセンター 事務局長）  
鈴木淳子さん（JVOD）
- ◆「災害時に自分たちの団体ができること」
  - ・アレルギーっ子の会ほれほれ
  - ・りす会山口（あらいぐま作戦in山口）
  - ・山口県子ども食堂支援センター
  - ・山口災害救援
  - ・山口県社会福祉協議会
- ◆グループに分かれて話し合い・発表
- ◆クロージングセッション

開催日：2025年5月30日（金）13：30～16：00  
開催場所：パルトピアやまぐち 2F大ホール  
参加者：45名（アンケート回答率87%）

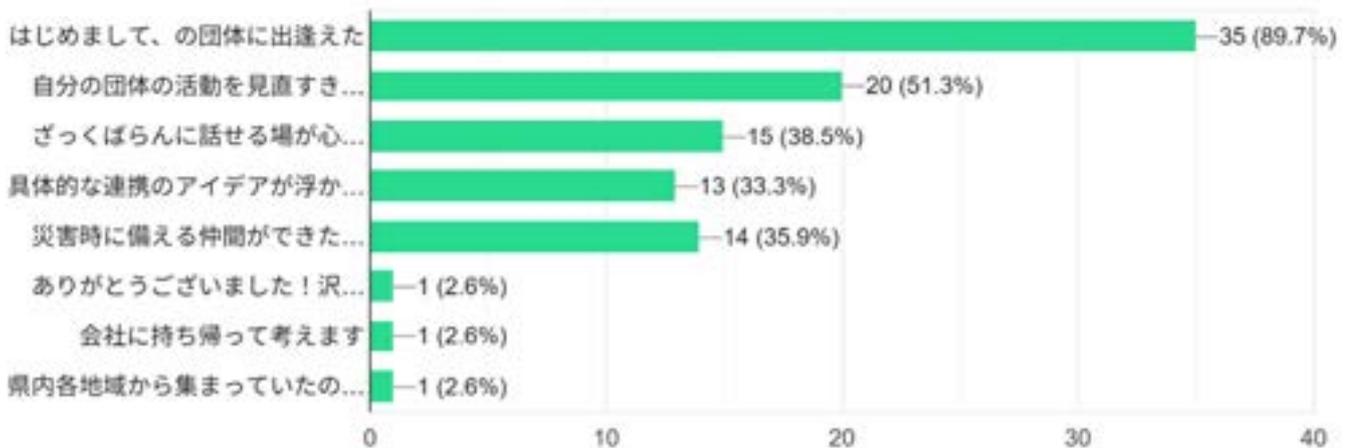
# 1. 「災害時できるかも大交流会」 アンケート回答まとめ

1. 参加してみて、どんな「よかった」がありましたか？（複数回答）

- はじめまして、の団体に出逢えた
- 自分の団体の活動を見直すきっかけになった
- ざっくばらんに話せる場が心地よかった
- 具体的な連携のアイデアが浮かんだ
- 災害時に備える仲間ができた気がする
- その他
  - ・ありがとうございました！沢山のの方の様々な活動内容、志が伺えてとても新鮮でした！目からウロコな情報ばかり、みなさんに会えて感動しています。
  - ・会社に持ち帰って考えます
  - ・県内各地域から集まっていたのがよかった
  - ・段ボールベッドや簡易トイレなど普段から防災を意識できる物や情報がたくさん展示してあり良かった

1.参加してみて、どんな「よかった」がありましたか？（複数回答OK）

39件の回答



※回答の多い順に表を作成しています。  
(複数回答)

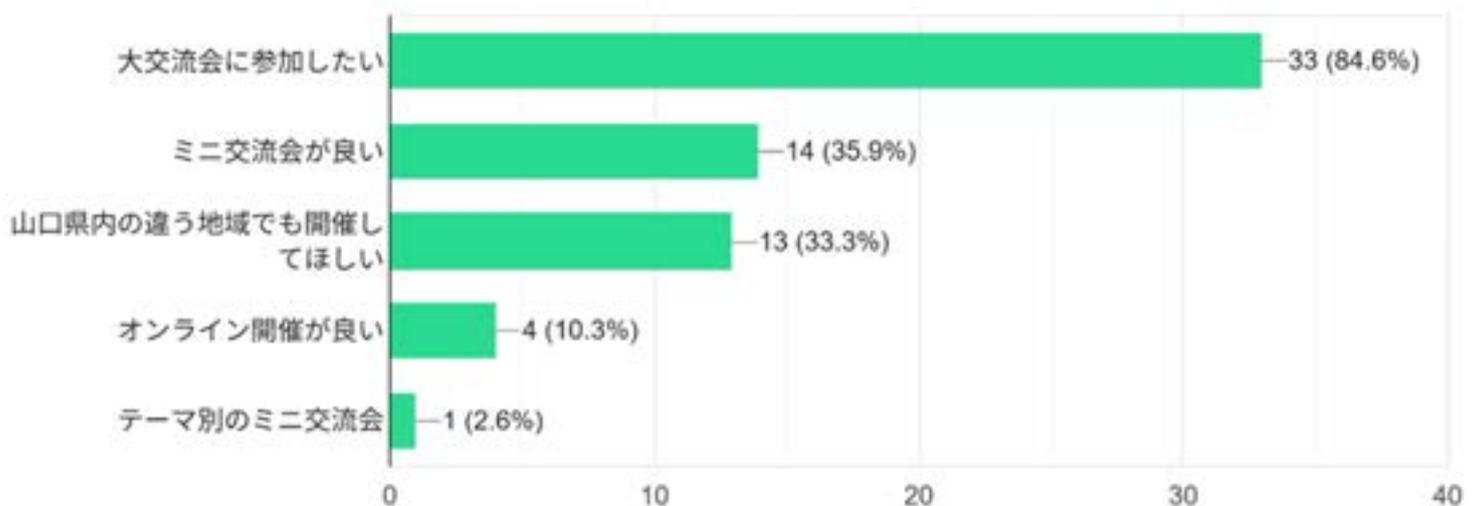
\*「はじめまして、の団体に出逢えた」（35件）が最多という点から、新しい出会いやネットワーキングの場としての価値が高かったことがわかります。

「ざっくばらんに話せる場が心地よかった」（15件）や、「災害時に備える仲間ができた気がする」（14件）からも、安心して話し、関係性を築くこと自体が求められていたことがうかがえます。

## 2. また今日のような会があれば、参加したいと思いますか？（複数回答）

### 2. また今日のような会があれば、参加したいと思いますか？（複数回答OK）

39件の回答



#### 「大交流会に参加したい」が圧倒的多数

→ 今回のような大きな会での出会いやつながりを楽しんだ方が多かったようです。

#### 「ミニ交流会」や「他の地域での開催」も一定数

→ 身近な場所や少人数で、もっと気軽に話せる場を求める声もありました。

#### 「オンライン開催」を希望する声も

→ 遠くからでも参加しやすい形や、いろんな人が関われる工夫も大事にしたいですね。

#### 「テーマ別のミニ交流会」

→ 共通の関心を持つ人同士で深く話せる場を望む声もありました。

例えば子育て支援団体で話したい、移住者や外国人支援に関わる人たちで話したい、など、関心ごとでつながることで、より実りある交流が期待できそうです。

### 3. 今後、このような会に「来てもらいたい」と思う

#### 団体や企業・人（自由記述まとめ）

##### 【地域の一般住民・個人】

家族・友人  
いろいろな立場の人達  
災害には関係ないと思われて  
いる活動団体の方

##### 【若者・教育関係者】

学生、大学生（複数）  
児童・生徒  
各学校の教員  
学生団体など

##### 【地域団体・自治組織】

山口県内の市民団体・地域団体  
地域のコミュニティ  
地域団体（地縁）  
自治会の人民  
地域の自主防災組織  
地域の防災士の方々  
まちづくり協議会

##### 【企業・行政関係】

市や県の関係者（例：市・県を巻き込んで）  
県知事さんや市長さん  
危機管理課の職員  
調整本部、災对本部の方々  
東京海上のような損保会社  
県内の災害対策に興味のある企業

##### 【専門家・実践者】

防災士や消防団のメンバー  
災害・防災の専門家（実践者）  
災害ボランティアに参加した方の話が聞きたい

##### 【その他】

5/30できるかも大交流に参加した方の  
友人・知人



##### 【参加者アンケートより】

今後このような会に「来てもらいたい」と思う相手として、家族や友人、学生や子ども、地域の団体、学校関係者、行政や企業の方、防災士やボランティア経験者など、幅広い層の名前があがりました。

特に、若い世代や学校関係者、そして実際の支援経験がある方々との交流を望む声が多く、「もっとたくさんの人とつながっていきたい」という気持ちが、たくさん寄せられました。

今回の会を通じて、“この場に他の人にも来てほしい”と思えるような手ごたえや、他の立場の人とも一緒に考えたいという思いが広がっていたことが伝わってきます。

今後、ネットワークをさらに広げていくうえでの大きなヒントとなりそうです。

## 2. 「災害時できるかも大交流会」 グループtalk まとめ



### ① 災害時、自分たちができること、できるかもしれないこと

#### つなぐ・調整する

- ・市民活動団体とのマッチング
- ・他市、他県の支援センターとの連携・ヘルプ
- ・ネットワーク内での調整
- ・必要な支援を提供可能な主体の発掘（県内外）
- ・関係団体に災害の状況を周知
- ・学生や大学、友好団体との連携
- ・中間支援組織としてのコミュニティ連携
- ・医療系専門家（医師、看護師、薬剤師など）への橋渡し（アレルギー専門など）
- ・ファンドレイザーとして寄付集め
- ・ペット飼い主ネットワーク形成
- ・企業につなぐ（商品）
- ・住民とボラセン・関連団体をつなぐ

#### 情報発信・共有

- ・SNS・HPでの発信・情報収集
- ・自助・防災・減災に関する情報提供
- ・避難所や被災状況の可視化
- ・アレルギー関連情報の発信
- ・スキルの共有（地域住民が持つ力）
- ・学生間の情報共有

#### 基盤整備・運営支援

- ・ボラセン（ボランティアセンター）の立ち上げ支援
- ・ニーズ調査
- ・活動支援、物資仕分け
- ・災害弱者への対応
- ・食の知識の提供

#### 食・栄養の支援

- ・子ども食堂の活用
- ・栄養士としての支援
- ・無農薬食、アレルギー対応食の提供

#### 人的・実動支援

- ・炊き出し、避難所支援・訪問避難所運営のサポート
- ・ボランティア活動（現地やセンターで）
- ・食料・水・備蓄品の提供
- ・段ボールベッドの提供・組立
- ・重機での作業、シート掛け、家屋修理
- ・閉じ込め解除（鍵開けなど）
- ・軽トラ・バイクでの運搬
- ・排泄のにおい等の緩和（えひめAI）
- ・日赤へ搬送

#### 福祉・医療支援

- ・がん患者の寄り添い支援・傾聴活動（ウィッグ、入浴着、患者会など）
- ・日本オストミー協会との連携
- ・アレルギー対策・講習
- ・福祉全般の相談（分野を問わない）
- ・人工肛門・膀胱ストーマケア ・看護

#### 避難所対応・備え

- ・会社や大学を避難所として活用
- ・ロケットストーブの製作
- ・データベース化された防災マップ
- ・ペット避難、防災意識の向上
- ・住民同士の信頼関係を築く

## ② 災害時、どんな助けが必要ですか？



### ☆情報・通信インフラ

- ・ ネット環境の確保
- ・ 情報インフラがダウンした時の支援
- ・ 地域情報（避難所・電気・交通・物資状況）の発信・収集・ヒアリング
- ・ 現状の把握と可視化
- ・ 平時からのノウハウ伝達
- ・ 専門的な知識や技術の提供

### ☆物資・資材・拠点

- ・ 食料・水・電気・薬・医療器具の供給
- ・ プライベートスペース・トイレ（パウチ含む）確保
- ・ 赤十字資材の搬送方法
- ・ 拠点の設置（仮設センターや間借り）
- ・ インフラの修復

### ☆人的支援・連携

- ・ ボランティア・人材の確保（外部からの受け入れ調整含む）
- ・ 指揮系統の明確化
- ・ 信頼できる外部団体との事前連携
- ・ 機材・資金・専門職（保健師・栄養士など）とのつながり方
- ・ 物資が届いていない地域のヒアリング

### ☆多様な人への配慮

- ・ 避難弱者（高齢者・障がい者・持病のある方）への支援
- ・ 留学生・外国人への言語支援
- ・ 食品原材料表示の配慮
- ・ 支援者側も地域についての情報が必要（大学生・県外者など）

### ☆地域との共助・事前準備

- ・ 地元コミュニティによる共助
- ・ 地区の防災マップ作成と「活用してもらう工夫」
- ・ 平時からの知識・ノウハウ共有（防災教育・企業の社会貢献）
- ・ 発災時に大学や企業と連携できる体制づくり

### まとめ：中間支援組織が担えること

- ・ 地域と外部団体との橋渡し
- ・ 情報発信・可視化のサポート
- ・ 支援者・被災者双方の「知らない」を埋める
- ・ 多様な立場の人を想定した事前準備

### ③ 自分たち以外、誰のためのどんな助けが必要ですか？

#### ★孤立・要配慮者の支援

- ・他県から来た人、留学生、外国人への情報提供・拠点づくり
- ・独居高齢者の安否確認・救助、独居老人のための支援
- ・要配慮者（高齢者、障がい者、持病のある人など）の受け入れ体制
- ・ペットの避難・避難場所や情報提供
- ・支援者自身の心のケア、プライベートスペースの確保も重要

#### ★アレルギー・配慮が必要な人への情報支援



- ・アレルギーで困っている人の把握と情報共有
- ・アレルギー対応の支援情報を必要な人に届けるためのつなぎ役
- ・食品・物資のアレルゲン表示に配慮

#### ★つながりと共助の事前準備

- ・日ごろから「お互いに何ができるか」を共有し、つながっておく
- ・支援者側も地域の情報・住民の状況を理解しておく  
(例：大学生など)
- ・支援ネットワークは行政・社協・ボラセンの“補完”として必要



#### ★搬送・物資調整

- ・赤十字などの備蓄資材が「あるけど運べない」課題
- ・物流・搬送体制の確保やマッチングのしくみも必要

#### ★被災者とのコミュニケーション

- ・「寄り添い」「話を聴ける」人の存在（傾聴支援）
- ・被災者の個別ニーズに対応できる支援体制が必要

#### ★【まとめ】中間支援組織の役割（補完・つなぐ）

- ・現場と外部の橋渡し（情報・人材・物流）
- ・要配慮者や多様な人々への視点の補完
- ・平時からの関係性づくり・顔の見えるネットワーク形成
- ・支援者の支援（心のケア含む）
- ・行政・社協・ボラセンの補完



## 【グループワークより】

参加者からは、「自分たちにできることをあらためて考えるきっかけになった」「他の団体がどんな視点で支援を考えているかを知ることができた」という声が多くありました。

特に印象的だったのは、「情報が届きにくい人」や「孤立しがちな人」をどう支えるかという視点が、多くのグループで共通して出てきたことです。

地域の中でどんな人が困るのか、その人たちの声が届いているかどうか——

そうした問いを持ちながら、みなさんが真剣に意見を出し合われていました。

また、「平時からのつながり」が大切だという認識も共通していました。

災害が起きてから助け合うのではなく、日ごろから「顔の見える関係」をつくっておくことの大切さが、あらためて共有された場となりました。



## 最後に

今後は、関心の近いテーマごとに小さな交流会を開いたり、地域ごとの顔合わせを通じて、身近なつながりを少しずつ広げていきたいと考えています。

今回のような“気づき”やアイデアを持ち寄る場を定期的に設けることで、団体どうしの実践や工夫を分かち合える機会をつくっていきます。

何より、ご回答くださった方々のお声をひとつひとつ大切に受け止め、「また参加したい!」という声を力に、次の企画や仕組みづくりへとつなげていきます。

これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



☆アンケートにお答えいただいた情報は、集計および分析に利用するほか、防災に関するセミナーや交流会のご案内に使用させていただきます。他の目的で使用することはございません。